

安

冕

長

安宅

うねよ老か実因富櫻の何果七は扱も頼朋  
義経は中不和よねとせよあり新宮殿へ  
十二人の能う山伏と成て奥(江戸)向乃中  
お物同石乃き關とて新因とて(山伏と  
燈く掛ひ)せとのけまうていま同山石  
ともまぬく山伏とてあすは今日も燈

中村のやと好いふ不淮うま今日とふたの  
切をりあゝいあまを中り

秋に衣を脱ぎ掛りく病けし神やしは

境 備門をて殿を拜まおの極あゆを

目とをくしの穢跡乃末思ひやれも遠あま

ねは供の人とよみ 伊勢の所縁の穢

行景信庵を後房 女をいんをせは

成中 八重ツナ二人未だぬね極縁此の於

念高あねとくふか神くいけまてれわきも

いさむ右の穢跡あまよあくけり

晴しりはを二月やく 衣更あ乃十日秋

月のやを成まゆくもやいけとゆるを別

てをりもゆるとあまいあふもあやねとを

坂乃山くはあねをくゆらうあきき

徳語をよむの如く、奥漢の浦より  
うり、東をこく、西の川に、東をこく、東  
乳山、南の海、東に久しき、津にや、東に  
か、山に、約をよみ、え、る、は、抄を、人、を、い、さ  
と、る、川、の、水、を、あ、ぬ、り、を、ま、を、三、國、み  
ぬ、あ、る、う、り、餘、り、を、ま、を、て、を、れ、り、の、と  
ち、き、は、た、の、在、宅、は、ま、を、ふ、り、を、

は、む、の、は、む、の、あ、る、の、添、ふ、は、ま、を、て、は、む、は、ま、を  
内、休、あ、ぬ、り、を、ま、を、い、さ、ふ、を、ま、を、

津、赤、い、い、い、今、撤、人、の、中、て、を、り、は、る  
ま、を、固、て、を、り、い、辞、の、共、ぬ、り、を、い、

在、宅、の、添、ふ、新、固、を、す、山、伏、と、撰、と、を  
ち、つ、き、い、い、ハ、一、大、の、れ、は、ま、を、て、い、  
皆、く、ん、中、の、を、り、を、ま、を、は、む、を、り、を、

あゝい 我の存い何程たまのりき

只亦致ては毎りあまうとやない

何者かよくは因一折あぬとやあゝい

そりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

大津うそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

存い 存い南と無産斗まゝい

最てい我の存いハ我をと指さく少月うさ

山伏うそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

思多うまうそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

割力の負をうそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

望望うそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

作らハ津の割力せうそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

やう小は沙居あまうそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

む也史ハ沙居あまうそりハ答は程のけまうそりハ答は程のけ

別力はつ髪と我君のけり有しやうまふとるよの  
けりまうていぬ人わう冥わとなごまうてい  
ぬごうまふていぬとまうていぬ又ゆをえの  
國の柄件と見てまうりぬ 何とけり福と  
うも道ひあさうきまをすまうぬぬと  
けりまうりまうりまうりまうりまうりま  
ていぬ <sup>上</sup> まやまやまやのま圓ま小柱てい

別力はつ髪と我君のけり有しやうまふとるよの  
けりまうていぬ人わう冥わとなごまうてい  
ぬごうまふていぬとまうていぬ又ゆをえの  
國の柄件と見てまうりぬ 何とけり福と  
うも道ひあさうきまをすまうぬぬと  
けりまうりまうりまうりまうりまうりま  
ていぬ <sup>上</sup> まやまやまやのま圓ま小柱てい

きも八国少くは <sup>し</sup> かも八南都東大  
休宗坊より大佛建立れるに關し（諸坊を以  
てこれの少僧道と云い其僧而て存するに  
久初より入久 <sup>し</sup> ともありまじりぬするに  
まわしきも八に伏す不派門と云ふ關中少くは  
其僧の <sup>し</sup> さんのおお義隆は中不和  
のせりより判官坂と十二人の僧

山伏と云ふ奥秀平と云は下向けりともははる  
關より新實と云ふ山伏と雲梯ひくせとの西  
寺より其寺同いおととも云わて山伏と云ふに  
付もいふお僧ゆらる一人と連しやる故に  
<sup>し</sup> 夫は他で山伏ともをぬると久き色滅乃山  
伏ともぬるといふ <sup>し</sup> とも切き山伏と判官坂  
<sup>し</sup> せりの同義のせも人も通しやる故に

板の我れをりももして淋せられ久しき

叶ののす し 音津な釣おふ不蓮よりあへ

来りひてんまのうれさこり六斤時のいしゆ食

後久うかゆふ動とてゆをふきくまをふ

少くい い ふうもろ静ふ初久 い

わくくばり い 夫山林いけて後の傳傳

寒の約儀と文 い 其身の不動のまれも密

とくく い 此中といけてみ智れ空冠すり

正骨條のひくふすく い 戴き い 今令受

陀羅のわきのまきり い 佛 い 志 い 一 い きの

腰巾とて い 初八日の草鞋の い 八系

の蓮花と い 知 い 入 い 息 い 六 い 呼 い 乃

二ま い 乃 い 山伏と い 笑 い 七 い 付

な い 乃 い 照 い 鏡 い 斗 い 二 い 乃



徒舟持渡のしつりてりてびま 五

あき 徒 人 人 電 電 風 風 月 月

伝 伝 殊 殊 ね ね さ さ く く と と 押 押 も も め め ば ば

ひ ひ 前 前 於 於 東 東 大 大 寺 寺 勢 勢

進 進 と と 行 行 じ じ む む 居 居 定 定 て て 初 初 進 進 帳 帳 の の 注 注 大 大 ね ね じ じ む む ば

作 作 り り 初 初 進 進 帳 帳 の の 七 七 八 八 九 九 十 十 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 種 種 國 國 子 子

乃 乃 ち ち と と ち ち ら ら 七 七 八 八 九 九 十 十 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 種 種 國 國 子 子

本 本 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本

小 小 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本

兄 兄 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本

く く れ れ 生 生 記 記 長 長 秋 秋 の の 長 長 き き 羨 羨 ね ね る る 事 事 本 本

身 身 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本

皇 皇 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本

皇 皇 一 一 巻 巻 方 方 本 本 初 初 進 進 帳 帳 と と 名 名 付 付 け け る る 事 事 本 本